

★ナルベイン注とオピオイド選択について★

Q1、ナルベイン注の特徴を教えてください。

- A1、●医療用麻薬であるナルベイン注は、ナルサス錠・ナルラピド錠と同じ成分（モルヒネから誘導された半合成オピオイドの「ヒドロモルフォン」）の製剤です。
- WHO方式がん疼痛治療ガイドラインにおける三段階除痛ラダーで、モルヒネやオキシコドンと同様の強オピオイド鎮痛薬に位置付けられています。
- ナルベイン注は、0.2%製剤（2mg/mL）及び高濃度の1.0%製剤（10mg/mL）があり、高用量の皮下投与が可能です。

Q2、内服製剤ナルサス錠からの換算比は？

- A2、ナルサス錠：ナルベイン注の1日量換算比は5：1とされています。

【表1 オピオイド鎮痛薬換算表】 オピオイド鎮痛薬1日投与量（mg）

一般名	ヒドロモルフォン		モルヒネ経口	オキシコドン経口	フェンタニル貼付剤
	ナルサス錠	ナルベイン注	カディアンカプセル	オキシコドン徐放カプセル	フェントステープ
用量	4	0.8	20	10	-
	6	1.2	30	20	1
	12	2.4	60	40	2
	24	4.8	120	80	4

Q3、オピオイドの選択の際、考えることはどのような点でしょうか。

- A3、主な5つのポイントを挙げます。

データで確認

1.腎機能障害

モルヒネは避ける。
ヒドロモルフォンはモルヒネより忍容性が高いとされる。

問診で確認

2.緊急性

注射剤を選択。
(院内採用薬：アンバック注、オキファスト注、フェンタニル注、ナルベイン注)

3.内服の負担

注射剤、貼付剤を選択。(フェントスは他のオピオイド製剤から変更して使用)

4.呼吸困難

モルヒネ、オキシコドンを優先。

5.便秘

モルヒネは避ける。フェンタニル製剤の使用を考慮。

【図1 WHO三段階除痛ラダー】

